

日本学術会議 防災減災学術連携委員会 防災学術連携体主催
防災推進国民大会 2018 セッション「日本学術会議公開シンポジウム/第6回防災学術連携シンポジウム」
の傍聴参加

日時：2018 年 10 月 13 日（日）16：30～19：00

会場：東京ビッグサイト 会議棟 7 階 国際会議場

テーマ：あなたが知りたい防災科学の最前線 首都直下地震に備える

趣旨：近年首都直下地震の発生が危惧されています。日本学術会議や防災学術連携体（56 学会）には、様々な視点から、首都直下地震の災害の軽減に向けて研究を続けている研究者がいます。防災においては「自助・共助」「地域での連携」が大切で、消防団、町内会や自治会、学校や職場で、防災訓練や教育が続けられています。シンポジウムでは、地域の防災力の強化に科学を役立てるため、市民の皆様が知りたい防災科学の最前線をわかりやすくお伝えします。

防災学術連携体の 56 団体（医療系学会）：

安全工学会、横断型基幹科学技術研究団体連合（37 学会）、環境システム計測制御学会
空気調和・衛生工学会、計測自動制御学会、こども環境学会、砂防学会、石油学会、ダム工学会
地盤工学会、地域安全学会、地理情報システム学会、土木学会、日本安全教育学会
日本応用地質学会、日本海洋学会、日本火災学会、日本火山学会、日本風工学会、日本活断層学会
日本看護系学会協議会（43 学会）、日本機械学会、日本気象学会、日本救急医学会
日本計画行政学会、日本建築学会、日本原子力学会、日本公衆衛生学会、日本古生物学会
日本コンクリート工学会、日本災害看護学会、日本災害情報学会、日本災害復興学会
日本自然災害学会、日本社会学会、日本森林学会、日本地震学会、日本地震工学会
日本地すべり学会、日本自治体危機管理学会、日本災害医学会、日本造園学会、日本第四紀学会
日本地域経済学会、日本地球惑星科学連合（50 学会）、日本地形学連合、日本地質学会
日本地図学会、日本地理学会、日本都市計画学会、日本水環境学会、日本リモートセンシング学会
日本緑化工学会、日本ロボット学会、農業農村工学会、廃棄物資源循環学会

シンポジウムのプログラム：

司会：目黒公郎氏（日本学術会議連携会員、東京大学教授）

16：30 挨拶・趣旨説明

挨拶：小井土雄一氏（防災学術連携体副代表幹事、日本災害医学会代表理事）

来賓挨拶：大西 隆氏（第 22、23 期日本学術会議会長 豊橋技術科学大学学長）

趣旨説明：古谷誠章氏（防災学術連携体代表幹事、日本建築学会会長、早稲田大学教授）

16：35 セッション 1 防災科学の最前線 その 1：ハード関係

日本活断層学会「首都直下の複雑なプレートと地震、活断層」遠田晋次氏（東北大学教授）

日本地図学会「地震に関するハザードマップの種類と読み方」宇根 寛氏（国土地理院センター長）
地盤工学会「首都直下地震による液状化被害について」橋本隆雄氏（国士舘大学教授）
土木学会「電気・上下水道・道路等のインフラはどうなるか」庄司 学氏（筑波大学准教授）
日本建築学会「建築とまちをもっと丈夫に」和田 章氏（東京工業大学名誉教授）

17:20 ショートプレゼンテーションおよびポスター発表

日本地震学会「首都直下地震に関する研究動向・研究成果」酒井慎一氏（東京大学准教授）
日本第四紀学会「活断層・斜面地形・地下地質から首都直下地震を考える」鈴木毅彦氏（首都大学東京教授）
日本地理学会「発達史地形学に基づく詳細地盤構造の解明」遠藤邦彦氏（日本大学名誉教授）
日本地すべり学会「地震による都市域の斜面災害」釜井俊孝氏（京都大学教授）

17:25 質問コーナー1「あなたの質問に答えます（その1）」

司 会：米田雅子氏（日本学術会議会員 防災学術連携体代表幹事 慶應義塾大学特任教授）

17:45 セッション2 防災科学の最前線 その2：ソフト関係

日本地震工学会「地震・水害等による複合災害への対応」久田嘉章氏（工学院大学教授）
日本災害情報学会「帰宅困難者・避難行動・地震火災」廣井 悠氏（東京大学准教授）
日本計画行政学会「身近な ICT ツールを用いた緊急時の情報伝達」山本佳世子氏（電気通信大学准教授）
日本災害医学会「首都直下地震における医療活動」岬 美穂氏（国立病院機構）
日本災害復興学会「首都直下地震における事前復興の意義と可能性」中林一樹氏（首都大学東京名誉教授）

18:30 ショートプレゼンテーションおよびポスター発表

地域安全学会「首都直下地震におけるリスクコミュニケーション」村尾 修氏（東北大学教授）
日本リモートセンシング学会「災害時におけるリモートセンシング技術の応用」桑原祐史氏（茨城大学教授）
日本自然災害学会「大規模災害時の災害対応業務プロセス」沼田宗純氏（東京大学）
日本自然災害学会「一万人の災害ボランティア構築への取り組み」藤重 裕氏（近畿大学）

18:35 質問コーナー2「あなたの質問に答えます（その2）」

司 会：米田雅子氏

19:00 閉会

傍聴者としての印象：

セッション1ではハード関係の話、セッション2ではソフト関係の話と内容を大きく2つに分けてセ

セッションが行われた。ハード関係でもソフト関係でも複数の学会の話の中で「レジリエンス」を高めることへの重要性、発災 72 時間は「公助」が行き届かない可能性があることを踏まえ地域住民同士で支え合うという「共助」が重要であるということが繰り返し述べられていた。また、特にソフト関係では「複合災害」などの最悪の想定をして考える必要性、地域防災計画の中で自分の自治体の境界を越えた現実的な「広域避難」を考える必要性、「帰宅困難」による二次災害を防ぐ対策（帰らない、助け合う）の必要性が述べられていた。

公開シンポジウムであるため一般住民にもわかりやすいように内容を紹介するということがあったが、参加者からは、「内容が多岐にわたり混乱した。系統だって議論してはどうか」という案が出た。各学会がばらばらに発表するというのではなく、ある程度集約して議論する必要があると感じられた。看護学として参加している JANA も 43 学会に及ぶため、日本の看護学の分野での様々な災害についての対応などをまとめる必要があり、さらに多くの知見を積み上げ、共有・発信する必要があると非常に感じた。

今後の活動予定：

今後開催される

- ・防災学術連携シンポジウム（2018 年 12 月～2019 年 1 月頃）
- ・緊急災害調査報告会（当該年度内に大規模災害が発生した場合）にできるだけ傍聴参加する